

考察

平成 14 年度の調査から 17 年が経ち、大津市の自然環境も大きく変わってきました。里山等の自然が衰退する一方で、公園や生垣などで多くの植栽を進めることにより、ドングリの種類分布も少しずつ変わりつつあります。しかし、そのような中でも調査対象とした 20 種類のドングリが全種類観察されたことは朗報であり、未来へ繋いでいきたい環境となります。今後も実りの秋には多くの方々の心を和ませる場となり、また、多くの子どもたちがドングリで遊んでいる姿のある風景を守っていききたいものです。

大津市「どんぐり調査」を振り返って

滋賀県シェアリングネイチャー協会
理事長 辻田 良雄

この調査に参加された方は171人。送られてきたデータは1017件。

送られてきた皆さんからの報告書に目を通させていただきました。また、調査を終えられた後に送られてきた感想も読ませていただきました。短期間のうちに、これだけ多くの方々が、どんぐりを拾い、手にして、どんぐりの名前を考えられて、どうしてここにこのどんぐりがあるのかを考えられました。この情熱といましようか、このどんぐりに向かわせたエネルギーはどこから湧き出てきているのでしょうか。

どんぐりの不思議な世界に触れて自然の面白さを深く追求したいという思いもあるでしょう。それに加えて、私は皆さんの心の中に深く入り込んでいることとして次のようなこともあると考えます。

それは、今、世界は、持続可能な開発目標(SDGs)を設定して、ヒトも含めてすべての生きものがこの地球で生存していくために目標を作って活動していこうという動きが出てきました。この動きはやはり世界中の多くの人々の、“このままでは地球が危ないぞ”という意識が多くの人々の心に響いていったことからです。そして、このどんぐり調査に向かわせた意識は、この地球規模で自然を考えていこうという思いと決して無関係ではないと思います。

この身近な市民環境調査の目的は、市民の皆さんに身近な環境市民調査員として大津市の身近な環境について調査をしていただくことで、身の回りの自然や環境の状況を実感し自然環境への意識と関心を高めてもらうとともに、市民の皆さんに報告することで、多くの大津市民が身近な環境をしり、環境保全活動や環境学習に活用してもらうことにあります。調査し報告することで多くの方々の活動や学習に役立てることができるという強い気持ちも皆さんの心を動かしていることでしょう。

どんぐりはかつては食材であったように生活に欠かすことのできないものであり、また子どもたちの遊び道具の一つでもあったように身近なものとして多くの方々に親しまれてきました。そんなどんぐりは日頃なにげなくみているのと、調査ということでどんぐりをしっかりと見ているのとではどんぐりの見方が変わります。実はそのところが大切なことです。調査をしていて、どんぐりを拾われ、手にして、そして次に考えることはなぜここにどんぐりの木があるのか、と。この視点を広げて問題意識を持って考えたとき大津市内の自然環境について大いに考えるきっかけとなっているのです。

そういう意味でこの市民調査は確実に成功しているといえます。

調査の結果を見ていくと:

この大津市の身近な環境市民調査において、どんぐりは平成14年度、平成25年度そして今回三度目の調査対象になっています。

この市民調査は学術調査でなく市民が調査するもので、調査対象の場所も、調査する市

民も毎回違っています。また、わずか十数年の期間で変化の考察など考えられないと考えてしまいがちです。比較考察をしていくことはかなり困難であり限界があります。しかし、大津市の自然環境の変化をみていくことも調査の大きな役目です。そういったことから三度の調査からの比較考察はこの報告書のなかでも述べられてあります。

ここで、私見も交えてもう一步突っ込んだ私なりの考察をあえてここで述べさせていただきます。

◎三度の調査結果を比較考察してみると、

- ①公園や道路沿いには、クヌギ、シラカシやマテバシイが増えつつあります。
- ②アラカシは寺社に多く保存され、また、公園や道路沿いにおいても植栽されているようです。
- ③スダジイは全体的には維持されており、寺社や公園で維持されています。ツブラジイは寺社では維持されていますが、全体的には減少傾向にあります。
- ④アベマキは公園・道路沿いに少し増えつつあります。
- ⑤コナラは山などで維持されていますが、全体的には、減少傾向にあります。

◎今回初めて、「ブナ」「イヌブナ」「クリ」を調査の対象として入れました。どんぐりをブナ科の木の実として定義したためです。

また、大津市の自然環境を考えていただくために、「ブナ」の木が生存していることを知っていただきたかったこともあります。「ブナ」の木の生存地としては白神山地など東北にあることが有名ですが、この大津市にもあることを知っていただきたかった。そして、今回報告していただきました。

比叡山のブナは自生したものです。何力所かに点在して生息しています。永年、このブナを観察してきて、最近明らかに枯死して倒木していく木を見ます。明らかに何らかの環境が変化してきていることが考えられます。

◎「ナラ枯れ」の状況は、いまだ収束はしていません。近くの山や林のブナ科の樹木がやはりナラ枯れと思われる原因で倒れているのを見ます。今後も注目して見ていく必要があります。

今後も、ぜひブナ科の木を通して環境の変化に注目して大津市の環境をみていきたいです。

今回の調査で、「どうしてそのどんぐりの木がここにあると考えますか」という項目を加えさせていただきました。「自然に生えていた」「昔、山だったから」「動物が種を運んできたから」「寺社に自生していたから」「公園の緑化や日陰のため」「風よけのため」「生け垣として」「庭木として」「公園で子どもの遊びのため」「薪採取のため」などと報告していただきました。

住まいや公園や寺社の境内に人の手で景観を作るために植栽されたものもあるでしょう。大津市は一部の種類を除いてどんぐりの木が条件さえ調べばもともとは生育しやすい自然

環境になっています。山や林に自生したものだけでなく、寺社には鎮守の杜としてどんぐりの木が保存されてきました。そして、公園や住まいに緑化などのために植栽されてきました。開発のために伐採する一方、人は積極的にどんぐりの木を増やしています。

皆さんが手にしたどんぐりは、果たして人がどんぐりをどんな目的に利用としたのか、また、どんぐりがまさに種子から生えてくる自然環境が大津市内にはどんなところに残っているのか、そんなことを考えていただくきっかけにしてほしいという考えから項目を作りました。

これからもぜひ、なぜここにどんぐりの木があるのかを考えていただければ、もっと広く深く、今の大津市の環境について、そして将来の大津市の環境の姿について考えていただけると信じています。

調査報告、本当にありがとうございました。

令和2年3月

市民調査員の皆様からの感想など

多くのご感想をいただきましたのでご紹介させていただきます。

- 一口にドングリと言っても種類も大変多く、その種の識別は大変難しいと思った。
- 今まで意識的にドングリを見たことがなかったが、今回、ドングリだけを探して歩いたら、あるわあるわ、こんなにも沢山あるのだなと驚いた。無意識に暮らしていると全く気がつかない。アカガシ、ツクバネガシ、ウラジログシ、ミズナラ、ブナ、カシワ、これは市内中心地及びその周辺では見つけることは出来なかった。特にカシワはあるだろうと探したが、全く見つけられなかった。アラカシはどこにでもあるので、もう記載しなかった。一番ありふれているドングリではなかるうか。アラカシは土着で生えている感じだが、シラカシは100%植樹されている感じがする。アラカシは葉の大きさ、色などものすごくバラつきがあって悩まされた。クヌギとアベマキの見分けも難しかったが、模様や葉の色と花柱の大きさに判定出来るようになった。びわ湖大津館の庭にイングリッシュオーク（ヨーロッパナラ）が記念植樹されている。バラ園の中にはレッドオーク（アカガシワ）らしき樹もあったが、確信は持てない。何故、そこにあるかは想像がつかない。植樹された以外、コナラとかアラカシはかつて大昔、食料として植えられたのではなかるうか。シイはそこそこうまかったが、マテバシイは食べられたが、あまりうま味はない。
- ブナの実今年は極端に少なかった。シイの実神社では見つけやすかったけれど、山や林の中では見つけるのが大変でした。 スダジイの実炒って食べてみると素直な味でした。あらためてドングリの勉強をしました。自分なりに表を作り楽しかったです。
- 秋は一年の中で一番過ごしやすく大好きな季節なのですが、いつも駆け足で過ぎてしまうのが淋しくもありました。しかし、今年は紅葉やドングリの事を少し意識して観察していたので、例年よりも季節の移ろいを親子で楽しむ事が出来て良かったです。娘たちも幼稚園の頃の事を思い出して、一緒にドングリ拾いを楽しんでいました。自宅で食べるまでには至らなかったもので、道の駅等でドングリのおせんべい等を見かけた時は食べさせたいと思います。親子で楽しめる機会を頂き、有難うございました！
- 調査をしている最中にも新名神の建設工事の音が聞こえてくる。工事が進むにつれて環境も変わり、自然が壊れていくし、元には戻らない。道路完成後はどうなっているのか想像も出来ない。数年前に発生したナラ枯れにより、木が朽ち倒木も目立ってきた。それでもドングリが落ち、芽を出しているのを見て、自然に枯れても自然に蘇ると思った。
- ほうぼう歩いて調査したかったのですが、今年は体調を崩してしまいました。散歩の途中、開発が進み以前あったと思われたところが様変わりし、残念でした。田畑の畦に櫟（くぬぎ）の木があったのが見当たりませんでした。 俳句「団栗が落ちて遅れて殻斗落つ」

●9/16の説明会に参加することが出来なかったのが、残念だった。少し知識を入れてから取り組みたらもっと楽しく調査が出来る気がした。持ち帰って調べるのは、地図が分かりにくく場所の特定が大変だった。大津市以外の場所でも、県内、県外でドングリがつつい気になる日々でした。自分の小さい頃から、子育て中も多くのドングリを拾ったと思うが、殻斗に注視した事が無かったので、多くの種類がある事に驚いた。11月は忙しく調査が進まなかったのが残念。(気にして道で拾ったりしたがまとめる前に忘れてしまったり…)説明会の日程が2日ほどあって選べると良かったと思う。

●普段野鳥などを観察している近所の山で、リスやカケスなど、ドングリを食べる生き物を良く見かけていたほか、夏の間ドングリの木の幹から出る樹液に昆虫が集まっている場所をいくつも見つけてあったので、植物の調査の経験はありませんでしたが、いつもの観察の延長と言う形で調査を行うことが出来ました。調査を始めてみると、思った以上にドングリの木が多く、調査票には本数は書いてありませんが、特に多かったコナラは、斜面等で近づけない所にあるものを含めて、数十本以上はあったのではないかと思います。これまで参加したバツタやサギの調査とはまた少し異なる方法の調査ができ、良い経験になりました。

●近所の公園をいくつか回ってみました。意外とドングリのなる木が生えている所が少ないという印象です。クスノキなどはよく見かけたのですが。ドングリが落ちてると子ども達が喜びるので、市内の公園にもっとドングリのなる木が増えるとよいと思いました。

●まずドングリにこんなに色々種類がある事に驚きでした。家の周りや神社を中心に子ども達と散歩しながら調査しましたが、思っていたよりも沢山あったことにも驚きました。ドングリを見つけたときの子ども達の嬉しそうな顔やついでにお花や虫を見つけて喜び様子が見ていて楽しかったです。以前に調査した、ツバメやバツタ、サギは調査の終わった今でも見かけるとついついチェックしてしまいます。この先ドングリもついついチェックするだろうな〜と思っています(笑)調査を通じて、自然に目を向けて自分たちが生きている環境について知ることは、より心が豊かになる事だと思っています。楽しく調査出来ました！ありがとうございました！(参考にした図書)「ドングリさんぽ手帖」世界文化社 宮國 晋一

●今回の調査でクリもドングリの仲間だと初めて知りました。とても楽しかったです。(クリはごはんと一緒に食べました)

●葉っぱのうらに毛がはえていることに初めて気づきました。

●大將軍神社でしいの実を拾って食べました。去年も食べたのでおいしかったです。

●道端に落ちているのが殻斗とは今まで知らなかったが、この調査で発見出来ました。(何年も前から何か変なものが落ちていると思っていましたが)

●ドングリがかわいかった。ドングリがいっぱい落ちていて、ひろうのが楽しかった。

●ドングリは大好きでたくさんひろったりしてましたが、今年は木肌やはっぱの形、珍しいドングリをみつけた等、いつもとは違った目線で集めることができました。クヌギのドングリを探していたら、犬の散歩の方から、クヌギは10月1週目くらいにたくさん落ちてたよ、みんなちょこちょこ持って帰ってなくなったところだよと教えていただきました。

●これまでドングリといえば、ひとくくりでドングリでした。それぞれ違う樹木の実であることは分かっていたのですが、あえて詳しく知ろうとも思いませんでした。今回、調査に参加して、ドングリがブナ科の樹木の果実全般を指すこと、ブナ科の樹木にはさまざまな種類があることを知り、(木の名前は聞いたことはあるが、カシはカシとしか認識してなかった)ドングリを見る目が変わりました。私が住んでいる場所は、周囲が山でブナ科の樹木も沢山あります。しかし木が多すぎて、落ちているドングリがどの木から落ちたのか分かりにくかったです。しかも山の木はいずれも大木で、がけや擁壁の上に生えているため、葉を木から直接採ることができず、下に落ちた葉を拾い木の幹や姿を見て見当をつけました。期間中に膝を痛めたため、十分に調査に行けず、心残りではありますが、これから毎年ドングリを見たらきっと同定したくなると思います。少し自分とドングリの距離が縮まったような気がします。

●今回の調査は難しかった。もっと簡単だと思って始めたが、ドングリのなる木が意外に見つけれなかった。どこにでも植わっている様に思っていたけれど、大木になるためか、広い場所まで行かないと見つけれないと思った。基本的には、普段の犬の散歩を中心としているので余計にそう感じたのかもしれませんが。四ツ谷川のクヌギは切られたのはショックでした。大木がずらっと並び、大きなドングリがいっぱい落ちてるのは胸がワクワクしたものでした。古木が一本だけヒョロっと残っていますが痛々しい限りです。

●ドングリの種類に詳しくなれてよかったです。知ると、以前にまして一本一本の木に愛着が持てるようになりました。似ているようで個性がハッキリあり、面白いなと思いました。親よりも子のほうが吸収が早くて(名前とか特徴とか)羨ましいばかりです(笑)

●ドングリ調査に参加させていただき「ドングリ」のかわいらしさにすっかり魅了されました。まず驚いたことは「ドングリ」は「クヌギ」も「シイ」もみんなまとめて「ドングリだったこと。落葉樹もあれば常緑樹もあり、「なり年」と「不なり年」があること等々、知ることができました。今年10月に兵庫県高砂市にある生石神社を訪ねた時、「ウバメガシ」の木を見つけました。よく見ると、枝に実(ドングリ)がいっぱいなっていて感動しました。観察会で「ウバメガシ」の葉を勉強していなかったら、ドングリがなる木とは思ってもせぬ通り過ぎていたと思います。また、自宅近くにある建部大社の参道は、いつも生垣がきれいに剪定されていて気持ちいいです。その生垣が「ウバメガシ」である事に…そしてその下に沢山のドングリが落ちていることを知り、感動しました。来年は木になっているドングリを見てみたいと楽しみにしています。身近な場所に少しだけ足を運んだだけでも沢山の発見があり、楽しい調査をすることができました。ありがとうございました。これからも自分にできそうな調査があれば、参加させていただきたいと思います。

●今回は家族で何か社会貢献できないか検討し参加しました。事前の勉強会では、中学時代の先生にも再会でき、驚きからスタート。さらにドングリと一言で片付けていたものが種類も多く、それぞれ特徴があるのに驚きました。家族で出かける時にしか探せませんでした。アラカシだ！、クヌギだ！とドングリだという言葉が出なくなったのが家族の成果なのかと思う。家族で出来る範囲でということやれたかなと思います。とてもよい経験でした。次回も参加したいと思います。

●小学校、公園にコナラ、マテバシイ属系のドングリがバラバラに出来ていました。公園はいろんな種類のドングリが発見されたので、たぶん植樹なのかなと思いました。

●今回、ドングリの調査が出来てよかったです。ドングリの名前や形、殻斗の状態が沢山あって驚きました。貴重なドングリの話も聞けてよかったです。「こんな種類があるんだ」とか「このドングリ見たことある」と私は講演中そう思いました。

●いろいろなドングリを見れてよかったです！！丸いドングリが多くて、私はドングリと言っていましたが、ドングリの名前「アラカシ、シラカシ、クヌギ、アベマキ、そのほか」の名前を知ることができて嬉しかったです。ドングリがあっても葉がないときは、探しましたが葉が茶色と黒がある。見つけた場所が学校とか公園とかにあるのを知ってよかったです。楽しかったです、また機会があればやりたいです！！

●ドングリをじっくり見る機会もあまりなかったのですが、この調査を通じて様々なドングリがあることを知ることが出来、とてもよい経験をさせていただきました。また、ドングリだけではなく、木の幹や葉から種類を特定していく楽しさも味わえ、ドングリのなりそうな木を見ては子どもと「あれはアカガシかな？」「やっぱりクヌギは特徴的だね」など、山の中を歩くときの新たな楽しみが出来ました。とても良い経験をさせていただき、ありがとうございました。

●ドングリの種類がいっぱいあることがすごくわかりました。特に、コナラが多かったです。ドングリの種類がいっぱいあることが知れて、楽しかったです。ありがとうございました。

●まず、ドングリの種類が沢山ある事に驚きました。探してみると意外と見つからなく、見つけたときはうれしかったです。日常の風景、散歩道で木を見る癖が出来、沢山の木があることに興味を持ちました。スマホで写真を撮ったりしながら、楽しくドングリ調査が出来ました。

●日々のお散歩が楽しくなりました。小さいころは、いろんなドングリを集めた思い出があります。子どもが成長したら一緒にドングリを集めたいと思いました。

●ドングリが総称だという事を知りました。今回日程が取れず、もっと他の場所も調査したかったと思う反面、スマホで撮った画像をアップする様な簡単な調査内容だったらもっとやり易かったかな、とも思いました。

●見つけたドングリの名称を調べるのは難しかった。同じ種類と思われる木でも 大きさや環境によってドングリのなり方が違った。公園によって、植栽が異なることを発見した。町内の公園を中心に探したがあまり見つからなかった。（公園が思った以上にあることに改めて気付いた）

●雑木林が竹やぶになって立ち入ることが出来ない場所が多くあります。衣川3丁目の住宅で、マキを家の周りに沢山積み上げているお宅がありました。近くの山林でマキストーブ用の木材が入手できるといいですが、竹もストーブに使えると管理が良くなれないかな。

●大阪府在住のため、勤務先敷地内での調査になった。社内にはアラカシが多く、植樹したと思われるが、中にはツブラジイなど当研究所の設立以前から自生していたと考える木もあった。

●開始前の説明会でドングリをつける木の多さに驚きましたが、実際調査してみて近くで確認できたのは7種類しかなく、目にするものは限られているという様に感じた。また、今まではどこにでも生えているように思っていたが、探してみるとあまりないことが判った。特に市街地では自生でなく、整備時（公園や道路）に植えられたようなものばかりであることが判った。

●普段買い物などで歩いている道沿いにはあまりドングリがなかったので、地図（航空写真）などで緑がありそうな所を調べしてから探した。カシの仲間の見分け方が難しく、最後まで判断には迷った。

●9月END～11月ENDまで、大津北部を中心にミニバイクで調査させていただきました。ドングリの種類は書面やネットで確認すると「こんなに有るんだ」と思いました。今回クリやアラカシ、クヌギは数多くいろいろな場所にあった。開発された土地（住宅地）のドングリは、人工的に植えられているものと自生しているものもあり、一部自生していると思う木の大きさを判断するところもあった。地名が不明なところは電柱ナンバーを記入したりしている。今回の調査で奇矯な大津北部の探訪が出来ました。

●ドングリの種類が沢山あり、驚いた。葉っぱやドングリの形等で見分けることが難しかったが、調査は面白かった。

●生まれて初めてドングリを食べました。コナラはとっても渋くてびっくりしました。そのすぐ後にツブラジイを食べたのでおいしい！（食べられる！）と思いました。他のナッツ（ピーナッツや他）同様、処理をすれば、いずれもおいしくなりそうですが、食べれる部分がとても少ないので残念です。

●今回初めて参加させていただきました。休日を利用して、堅田を中心に散歩がてらに楽しく調査することが出来ました。最初は堅田町内の平野部（住宅街）で調査しましたが、一般家屋の庭などに数本見つけたぐらいでした。調査場所を春日山周辺に移したところ、山際、山中に「ドングリ」が植生しているのを見つけ、自生の「ドングリ」は山中に多く植生し、平野部の「ドングリ」は、人の手で植えたものが多いと思いました。

●クリとドングリの区別しか分からないのに、調査員が出来るのかしらと心配でした。神社にドングリ、なんとなく有るような気がして、散歩がてら落ちている実を頼りに樹を覗て、葉も採取できるものは持ち帰り、少しずつ種類が分かるようになりました。道々出会った人から「実が染料になりますよ。鈍（にび）色に染まりますよ。」と教えて頂いたことも。衣川の梅の宮神社で掃除されている方に「ドングリの木は有りますか？」と尋ねると、「ここにはないですが、JRをはさんだ奥の衣川廃寺跡にいろいろありますよ。」と丁寧に案内して下さい、実まで一緒に探して下さいました。人々の出会いも楽しくて、嬉しかったです。課題の”なぜここにドングリの木があるのか”は、さっぱり考えが及びません。

●ドングリ調査をしてドングリの種類がたくさんあることが分かりました。色んな形や模様があってびっくりしました。これからはドングリについてもっと調べてみたいです。

●ドングリ調査は、思っていたよりも大変だったというのが正直な感想です。昨年のサギ調査よりは、やり易いかとも思っていたのですが、ドングリの方がはるかに難しかったです。ドングリは奥が深いです。最初の勉強会、フィールドワークは、大変勉強になりました。子どもたちが、真剣に話を聞いて、メモを取っていたのは、新鮮なドングリの話が聞かせてもらえたからだ、感謝しています。実際にドングリを拾って、特徴を調べていたときに、帽子（殻斗）の形やおしりのへこみ方、葉っぱのガタガタ（鋸歯）などの話が出たり、ドングリの実は、ここから栄養をもらって、ここから芽が出て、など話してくれる姿には頼もしささえ感じました。調査に参加させてもらったおかげです。子どもたちなりに、いい勉強と思い出になったことと思います。ありがとうございました。20種類あると聞いていたドングリのうち、実際に見ることができたのは10種類もなく、また、アラカシやコナラ、クヌギなど、同じドングリを見るが多かったのも、少し残念でした。その中で、あまり目にしない、シイを見れたときは本当に嬉しかったです。この調査をしていなかったら、たぶん目にはしなかったことと思います。あと、判別が難しかったことが、大きな悩みの種でした。特に、コナラは、実も、葉っぱの形もつかみにくく、言い切れるのがどうかというものが多かった印象だけが強く残っています。思っていたほど出かけられず、限られた地域での調査しか出来なかったこと、9、10月はまだ実ってなくて、調査にならなかったことが反省点で、偏った大津のドングリ調査になったかな、と思います。今回のことを機に、ドングリを見る視点が大きく変わりました。また、時間を見つけているんなドングリが見つけれたらと思う限りです。文化ゾーンの方面へ行く用事があり、ドングリの木を見に行ったら、すっかり葉が落ちている中に、緑のままの木がありました。アラカシです。勉強会のときに、常緑のドングリの木があると知って、びっくりしていたのですが、本当に緑のままなのだと思います。ドングリの木は、秋に実が落ちる頃に、葉も枯れて落ちるというイメージだったので、勉強会で聞いたときは驚きでした。あと、2年越しで育つドングリの実があることにもびっくりでした。奥の深いドングリのことは、これからも調べてみようと思います。今回は素敵な機会を与えてくださり、ありがとうございました。

●近くに出かけた時に、葉っぱが落ちていたり、ドングリが落ちていると、これは何ドングリだろうと自然と気になり、そのような自然の現象に目を向ける機会が増えました。何も道具がなくても自然の中で葉を拾ったり、木の実を拾ったりして遊ぶことが出来ると改めて感じ、今回の調査に参加してもらい、そのことをよりいっそう強く感じました。負担に感じることなく、家族みんなで楽しんで活動できたこと、感謝しています。どんぐり検索などの資料も分かり易かったです。

●子どもたちと散歩や自転車で通るときにみんなで探していました。幼稚園バスのバス停までの道のりにも沢山あったのでバス停まで歩いていくきっかけになりました。子どももまたやりたい！！と言っています。また、ぜひ参加させてください。

●この調査は、今まで以上に自然への興味と関心を深めるきっかけとなった。どの場所でも木があればドングリを探し、見上げて葉を知りたがり、好奇心いっぱいの秋となりました。ドングリだけでなく、木の実の面白さ、かわいさ、枯れ葉の色と形の美しさ、素晴らしさ。芸術の秋はここから始まったと思えます。同じドングリの木でも、実のつくもの、つかないものの不思議。保護樹木を訪ねてみつけたのは、ツブラジイの実ではなく、樹齢300年のその木の生命力ある存在の姿でした。また、歩くたびに捨てる実がたくさん集まりましたが、珍しい種類のドングリを見分けられるようになれば、もっと深い調査となるはずだったのが少し残念でした。



クヌギ
提供：谷内 暢明氏



クリ



コナラ
提供：谷内 暢明氏



マテバシイ
提供：谷内 暢明氏



シラカシ
提供：谷内 暢明氏

ご参加いただいた多くの調査員と関係者の皆様のご協力により、無事に本調査を実施することができました。また、滋賀県シェアリングネイチャー協会の辻田良雄先生におかれましては、ご多忙にもかかわらず快く講師役を引き受けてくださり、貴重な資料のご提供、調査の実施にあたっての多くのご助言、調査結果報告書の作成におけるご指導など、一方ならぬご尽力を賜りました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

令和元年度 身近な環境市民調査事業
「ドングリ」調査結果報告書

大津市環境部環境政策課
発行：令和2年3月

使用した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものです。
(承認番号 平30情複、第940号) 本書を複製する場合は、新たに国土地理院長の承認が必要です。